



研究部情報

令和7年11月7日

第2号

発行責任者 研究部長 高橋 郁子

編集者 副委員長 北川 美香

(道へき・複連 研究推進委員会)

第74回 全道へき地複式教育研究大会上川大会ファイナルステージ 概要報告 (全国へき地教育研究大会 北海道ブロック大会)

○研究主題

主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成

～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

○大会スローガン

北の大河の源流 上川の地で育つ子らに 未来を切り拓き 夢を実現する力を

1 大会概要

- (1) 開催期日 令和7年9月17日(水) 全体会・分散会 18日(木) 公開授業・研究協議
- (2) 主催 北海道へき地・複式教育研究連盟
- (3) 共催 全国へき地教育研究連盟
- (4) 主管 上川へき地・複式教育研究連盟
- (5) 後援 北海道教育委員会・北海道教育大学・上川管内教育委員会連合会・旭川市教育委員会
占冠村教育委員会・南富良野町教育委員会・富良野市教育委員会・中富良野町教育委員会
上富良野町教育委員会・美瑛町教育委員会・鷹栖町教育委員会・比布町教育委員会
東神楽町教育委員会・東川町教育委員会・当麻町教育委員会・愛別町教育委員会
上川町教育委員会・和寒町教育委員会・剣淵町教育委員会・士別市教育委員会
名寄市教育委員会・下川町教育委員会・美深町教育委員会・音威子府村教育委員会
中川町教育委員会・幌加内町教育委員会・北海道小学校長会・北海道中学校長会
上川管内校長会・旭川市小学校長会・旭川市中学校長会・上川管内教頭会
旭川市小中学校教頭会・上川管内教育研究会・上川教育研修センター・上川北部
南部PTA連合会

2 会場校の優れた実践内容

(1) 第1分科会 会場校 士別市立上士別小学校

○公開授業①の1年生の算数では、導入で、ロイロノートを活用して、ICTミライシード(ドリルノート)やAIドリルで前時の復習を行ったりすることで、児童の意欲づけが効果的に行われていた。

○公開授業①の2年生の算数では、リンゴ飴、やきとり、射的の絵を使って、かけ算の問題作成に取り組んだ。同時間接指導の場面では、デジタル教科書を効率よく活用しており、一人一人がまとまりを作ったり消したりしながら、よく考えて取り組んでいた。また、問題作成後の交流場面では、お互いに楽しそうに問題を出し合い、理解を深めていた。

○公開授業②の5,6年生の算数では、教師がファシリテーターとして問題や課題をつかませた後は、児童が一人ずつ淡々と、時には友達同士で助け合って協力しながら取り組んでいた。その間、特に、同時間接指導の場面では、教師は全体を見渡し、個人指導が必要な児童(手を挙げて質問等をする児童)に丁寧に適切に声をかけていた。そのような教師の意図的な関わり方により、児童が迷いなく学習を進めることができていた。



(2) 第2分科会 会場校 幌加内町立幌加内小学校

- 幌加内小学校では、昨年度に引き続き道徳科の授業改善を通じて、研究主題「豊かな関わりを通して、自己の生き方を考える子の育成」に取り組んでいた。研究の柱の(2)「生き方を考える」の手立てとして、「導入と振り返りの工夫」および「発問の精選、問い返し」の工夫」を重点に置き、学校全体で組織的に推進していた。
- 3・4年生による公開授業①は中止となったが、代替として遠隔合同授業の取組等が紹介された。相手校である石狩市立厚田学園の教師がオンラインで説明に加わり、授業の成果や課題について振り返りを行った。継続的な学習の積み重ねにより、児童同士の対話がスムーズになり、多様な意見に触れる貴重な機会になっていたとの報告があった。
- 公開授業②の5・6年生の道徳科では、5年生『ブランコ乗りとピエロ』6年生『この胸の痛みを』を教材として「相互理解・寛容」に迫る授業が公開された。研究の柱(1)「豊かな関わり」を生み出すためにICTを活用し、児童全員の考えを可視化することで、自他の意見を効果的に交流させ、思考を深める工夫がなされていた。(2)「生き方を考える」ためには、事前実施したアンケート結果を提示することで、児童が課題を自分事として捉えられるよう導入と振り返りに工夫が凝らされていた。また、発問を「人間理解」「他者理解」「価値理解」の3つに分類し、中心となる発問や問いの順序を精選することで、児童の思考をより深く掘り下げる授業展開がなされていた。



(3) 第3分科会 会場校 東川町立東川第二小学校

- 公開授業①の3年生の算数では、「直径」についてのまとめの場面で、児童が「かど」という言葉で表現していた。教師の予想する言葉は「まわり」だったが、児童の言葉を尊重してまとめることにより、主体的に学ぶ児童の考えを大切にする教師の意図的で柔軟な指導がみられた。また、児童の実態に合わせて、実際に色紙を使う算数的活動を取り入れた場面は、日常の学級経営や児童理解の丁寧さが授業の成立に大切であることを示してくれた。
- 公開授業①の4年生の算数では、児童がほぼすべて自分たちで授業を進めていて、リーダー学習が浸透していた。特に、「深める」場面では、ロイロノートを有効活用し、リーダーを中心とした主体的な学びの姿がみられた。
- 公開授業②の5・6年生の算数では、「見通しをもつ」場面で、交流を通してわかっていることやわからないこと、不安なことなどを自由に発言することにより、児童が思考を整理することができていた。自力解決の前に、不安を取り除き、主体的に自分で考える活動につながっていた。ほぼ、同時間接指導の学習展開であったが、教師が適切な判断で言葉を選び、タイミングを見計らって直接指導することにより、本時の目標に迫る授業となっていた。



(4) 第4分科会 会場校 美瑛町立美馬牛小学校

- 美馬牛小学校では、「自ら学び、進んで表現し、共に高め合う子の育成」の研究主題のもと、算数科の授業づくりを通して研究が進められていた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に向け、教職員が一丸となって取り組んでいる成果が子どもの姿を通してうかがうことができた。
- 公開授業①の算数では、1年生「3つのかずのたしざんひきざん」、2年生「たし算とひきざん」が公開された。1年生は1人での学習であったが、教師が子どもの学習の進み具合を見て適宜関わっていたことにより、学びを深めることができていた。2年生は、5人の子どもたちがどうすれば「速くて・簡単に・正確に」計算することができるかを考え、意見交流をしたり発表し合ったりする姿が見られた。
- 公開授業②の算数では、5年生「割合」、6年生「データの見方」が公開された。両学年とも学習リーダーを中心に、子どもたちが主体的に自力解決したり意見交流したりすることができていた。意見交流の場面では、子どもたちの説明が相手にしっかりと伝わっており、ノート指導とタブレット端末の両方を効果的に組み合わせて活用していた。また、教師の絶妙な問いかけにより、一人一人の学びがより深まっていた。
- 各学年の発達段階に応じた「表現力を高めるための話し方・聞き方」と「話し合いのお助け言葉」をベースに、系統的・計画的に学習が積み上げられてきていた。



(5) 第5分科会 会場校 富良野市立樹海学校

- 「主体的に課題を解決しようとする子ども」を目指し、研究主題「自分の考えを表現し、共に深め合い高め合う児童生徒の育成」（3年次計画3年目）のもと、研究内容「各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる知識を活用・発揮する場面の設定」として児童生徒の学び方について探究型研究に取り組んでいた。
- 公開授業①の5・6年生の「算数」では、課題解決に向け、既習内容を丁寧に振り返ることにより、児童の「数学的な見方・考え方」につなげることができていた。ICTやノート、ホワイトボードなど、児童は使いやすい道具をそれぞれ選択し、個人思考から集団解決（話し合い活動）に取り組んでいた。集団解決の際も、教師が児童の発言から出たキーワードを大切にし、根拠を持って理論的に説明できるよう話し合いの視点を示していた。
- 公開授業②の5～9年生の「体育・保健体育」では、ボール運動・球技の単元でキャッチバレーボールを行い、課題「ラリーを続けて、ゲームを楽しもう！」に取り組んだ。発達段階による学習指導要領内容・目標を踏まえ、指導計画や目標・観点・評価基準、教具の選別など、児童生徒がそれぞれの段階にあった活動ができるよう工夫されていた。児童生徒は、前時のプレーの記録を振り返り、チームの目標達成に向けた課題を見つけ、解決するための練習内容を考え、話し合い活動や実技に取り組んでいた。



(6) 第6分科会 会場校 南富良野町立南富良野小学校

○今年度は、昨年から継続して取り組んでいる「南富良野町学習スタンダード」を、学びの1つの手段として取り入れ、新たな授業改善のために授業づくりの基本「5つの視点」をもとに研究が進められていた。視点の1つである「教材・単元の工夫、話し合い活動の工夫、評価の工夫」を中心として、深い学びにつながる学習過程の工夫が進められていた。

○公開授業①の4年生の「算数」では、「面積」の単元で、具体物を活用しながら個人思考を促し、対話へとつなぎ、課題解決にあたっていた。授業の導入の段階では、ICTやノートを活用して、前時までの学習内容を想起させ、具体物や身近なもので興味を引くように工夫された内容であった。話し合い活動では、「話し合い技カード」をつくり、話し合いが苦手な子どもでもスムーズに進められるような工夫が取り入れられていた。また、児童が班員とホワイトボードに考えをまとめる協働的な学習の姿が見られた。

○公開授業②の5年生の「理科」では、児童の仮説・検証計画に基づき、課題解決に向けて実験を進める授業展開であった。実験条件を児童が自分で選ぶことで目的意識が明確になり、主体的に学習に取り組む姿が見られた。実験の途中結果をオクリンクにまとめ、リアルタイムで情報を共有することで、話し合いが活性化されていた。教師の指示が的確で児童に伝わりやすく、児童もよく反応していて、ゆとりを持って学びに向かう姿勢が見られた。



令和8年度 研究部情報

第75回全道へき地複式教育研究大会石狩大会(ファーストステージ)

○研究主題 主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成
～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす

学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

○スローガン 「石狩の大地に根ざし、未来を切り拓く力強い学びを」

○期 日 令和8年 9月16(水)～17日(木)

○会 場 全体会・分散会 札幌市『かでる2・7』
公開授業・研究協議 石狩市・江別市・千歳市

第75回全国へき地教育研究大会岐阜大会(ハイブリッド大会)

○研究主題 主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成
～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす

学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

○スローガン 『「ふるさと岐阜」で育んだ自信と誇りを胸に、

よりよい未来の実現に挑み続ける子を育てよう!」

○期 日 令和8年 11月12日(木)～13日(金)

○会 場 全体会・分散会 高山市民文化会館
分科会 岐阜県内6会場